

# IGA 専門部会報告

2024 年 1 月 23 日  
IGA 専門部会幹事会

## 1. IGA 専門部会会員数（2024 年 1 月 9 日時点）

116 名（2023.10 以後 1 名減）

## 2. IGA 関連情報

### (1) IGA 新体制に係る情報

- 2023 年 10 月の IGA 会長来日時の面談による情報あり（別紙参照）。
- IGA 本部と各国の団体（日本地熱学会を含む）の関係については、2024 年 1 月から新たなメンバー規約に基づくものになるとの情報があつたが、これまで公式な新情報無し。
- IGA 専門部会として今後どのような形で IGA に参加していくか、幹事会で引き続き検討する。

### (2) WGC2023 北京大会結果情報（IGA 事務局より）

- 参加者数：1,583 名
- 展示数：220
- 展示会参加者数：3 日間で 25,000 以上
- 論文数：436 件が IGA 地熱データベースに掲載済み。50 件が承認待ち状態。

### (3) Global Geothermal Impact Summit (GGIS) 2024

- IGA 主催の新規イベント：2024 年 4 月 23-24 日にオランダ・ハーグで開催予定
- 地熱の技術・学術というよりも、事業促進に係るビジネスに関連した内容

## 3. アジア西太平洋地域支部（AWPRB）関係

### (1) 会議実施（12 月 6 日オンライン）

IGA から独立した組織の設立に関する協議が行われた。

- ・名称：Asia Pacific Geothermal Association (APGA)とすることで決定。
- ・加盟国の対象地域や規約、メンバー構成（個人、団体等）については協議持ち越し。
- ・2024 年 4 月から新体制（新理事メンバー）の予定
- ・現 AWPRB の解散手続き・予算処理などは継続中。

※日本地熱学会として APGA に加盟するかどうかについては、規約や加盟費等が決定してから評議員会で協議して頂く予定。

以上

## IGA 新体制に係る情報（IGA 会長との面談情報）

2023年10月26日に安川幹事、また10月30日に内田・山田両幹事が、来日したIGA会長のSylvain Brogle氏と都内で面談を行った。その際、Brogle会長は、今回の来日目的やIGAの今後について、次のように語った。

- ◆ 今回の来日はIGA関係だけが目的。関係各社の他、JICA, JBICとも面談の予定。
- ◆ IGAは、ビジネスと科学・教育のために積極的に動き、政府機関への働き掛けも行う組織へ変革する。
- ◆ 教育では例えば、各地で行なわれている地熱教育に関わり、受講者にはIGAとして世界共通の修了証（certificate）を出す。
- ◆ リスク軽減、ファンドの導入、サステナブルな開発などの観点で、各国に適した地熱開発ビジネスモデルを作成し、新たに地熱開発を行う国などに提供する。また、開発に係る共通規格の策定も重要になる。
- ◆ WGC参加費のディスカウントのために入会している会員ばかりの組織は、我々の目指すものではなく、そういう会員が減ることは構わない。
- ◆ 新たな会員制度になることで理事投票権の数が大幅に減るのは承知。むしろ人数が多い団体会員（Affiliated Associations）からの組織票で理事が決まる現状を憂慮する。
- ◆ 各地域のビジネスユニットには資金集めを負わせるわけではない。各理事メンバーには分野的にも適材適所で活動してもらおう。例えばアカデミアには教育面の仕事を。
- ◆ 資金集めは会長と事務局長の仕事と認識している。会員からの会費は予算全体の20%に過ぎず、80%は他から得ることになる。
- ◆ IGAの財政は2023年6月の理事交代時にはかなり不健全なものであった。しかしWGC2023の日程・会場変更に係る違約金などの収入があり、現在は健全になった。
- ◆ 地熱に関して重要な国の一つである日本からもIGA理事を出してもらいたいと考えている。今後追加で理事を加えることは可能。
- ◆ WGC2026は、IGA主催、カナダのいくつかの機関共催で開催する。収支の責任は全てIGAが負う。